

機関番号	研究種目番号	審査区分番号	細目番号	分割番号	整理番号
23102	05	1	3105		0001

平成25年度(2013年度)基盤研究(B)(一般)研究計画調書

平成24年11月6日
4版

新規

研究種目	基盤研究(B)	審査区分	一般				
分野	人文学						
分科	文学						
細目	文学一般						
細目表 キーワード	諸地域・諸言語の文学						
細目表以外の キーワード							
研究代表者 氏名	(フリガナ)	ハタノ セツコ					
	(漢字等)	波田野 節子					
所属研究機関	新潟県立大学						
部局	国際地域学部						
職	教授						
研究課題名	朝鮮近代文学における日本語創作に関する総合的研究						
研究経費 (千円未満の 端数は切り 捨てる)	年度	研究経費 (千円)	使用内訳(千円)				
			設備備品費	消耗品費	旅費	人件費・謝金	その他
	平成25年度	5,820	0	0	5,790	0	30
	平成26年度	5,830	0	0	5,800	0	30
	平成27年度	6,140	0	0	5,420	390	330
	平成28年度	0	0	0	0	0	0
	平成29年度	0	0	0	0	0	0
総計	17,790	0	0	17,010	390	390	
開示希望の有無	審査結果の開示を希望する						
研究計画最終年度前年度応募	--						

研究組織（研究代表者、研究分担者及び連携研究者）

	氏名（年齢）	所属研究機関 部局 職	現在の専門 学位 役割分担	平成25年度 研究経費 （千円）	エフォ ート （%）
研究代表者	50259214（62） ハタノ セツコ 波田野 節子	（23102）新潟県立大学 （350）国際地域学部 （20）教授	朝鮮文学 学士 李光洙の日本語創作	4,300	20
研究分担者	80409367（48） ワタナベ ナオキ 渡辺 直紀	（32677）武蔵大学 （207）人文学部 （20）教授	朝鮮文学 修士 日朝合作映画の諸相	130	10
研究分担者	10425366（52） ヤマダ ヨシコ 山田 佳子	（23102）新潟県立大学 （350）国際地域学部 （27）准教授	朝鮮文学 修士 崔貞熙の日本語創作	230	10
研究分担者	70330892（48） クマキ ツトム 熊木 勉	（37111）福岡大学 （207）人文学部 （27）准教授	朝鮮文学 博士 太平洋戦争下の朝鮮における日本語詩	290	10
研究分担者	90197757（54） ツボイ ヒデト 坪井 秀人	（13901）名古屋大学 （923）文学研究科 （20）教授	日本文学 博士 宗主国の作家たちと朝鮮	190	10
研究分担者	60425080（38） ミツイ タカシ 三ツ井 崇	（12601）東京大学 （925）総合文化研究科 （27）准教授	歴史学 博士 朝鮮半島の日本語	130	10
研究分担者	50315181（43） ナガシマ ヒロキ 永島 広紀	（17201）佐賀大学 （107）文化教育学部 （27）准教授	歴史学 博士 日本語創作予備軍としての旧制高等学校朝鮮人生徒の文芸活動	290	10
研究分担者	10433707（39） ゴミブチ ノリツグ 五味 典嗣	（32604）大妻女子大学 （201）文学部 （27）准教授	日本文学 博士 戦時下の日本文学と朝鮮	130	10
合計 - 名			研究経費合計	-	

研究目的

本欄には、研究の全体構想及びその中で本研究の具体的な目的について、冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述した上で、適宜文献を引用しつつ記述し、特に次の点については、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。(記述に当たっては、「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」(公募要領 66 頁参照)を参考にしてください。)

研究の学術的背景(本研究に関連する国内・国外の研究動向及び位置づけ、応募者のこれまでの研究成果を踏まえ着想に至った経緯、これまでの研究成果を進展させる場合にはその内容等)

研究期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか

当該分野における本研究の学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義

研究目的(概要) 当該研究計画の目的について、簡潔にまとめて記述してください。

共同研究「朝鮮近代文学における日本語創作に関する総合的研究」の目的は、日本語創作に関する従来の研究を大きな枠組みで再照射して新たな知見を得ることである。

具体的には、近代朝鮮語形成期に朝鮮半島に流入した日本語の様相、日本に留学した朝鮮人学生たちの言語環境、植民地朝鮮のメディアや映画など諸領域における日本語使用状況などを視野に入れ、日本と朝鮮という特殊性から抜け出して「日本語創作」を「植民地における宗主国の言語による創作」と見る普遍的な視座のもとに、これまでの研究を見直すこと、これが本共同研究の目的である。

1. 発端：李光洙という作家

本共同研究を申請するにいたった発端は、申請者が現在おこなっている朝鮮近代文学作家李光洙(イ・グァンス：1892年～1950年?)の研究にある。

朝鮮半島北部で生まれた李光洙は明治末の日本に留学し、明治学院中学で文学に目覚めた。早稲田大学に在学中の1917年に朝鮮の新聞に連載した長編『無情』は、韓国で最初の近代的長編小説とされている。1919年には上海で臨時政府樹立に参加したがまもなく帰国し、穏健な民族運動をつづけながら多くの小説を書いてつねに文壇の頂点にあった。だが植民統治の末期に対日協力行為をおこなったために解放(1945年の植民統治の終焉を韓国ではこう呼ぶ)後は反民族行為の罪に問われ、朝鮮戦争のさなか北に連行されて行方不明となった。

近代文学の創始者であり、国民的な人気作家でありながら対日協力をし、最後は民族的悲劇のなかで姿を消した李光洙は韓国の人びとの記憶に刻印され、これまで多くの研究者によってその生涯と作品が研究されている。

2. これまでの経過

申請者は、李光洙の初期の著作に見られる社会進化論の影響に注目していくつかの論文を書き、2008年に『李光洙<無情>の研究 - 韓国啓蒙小説の光と影 -』(白帝社)を上梓した。これは韓国でも翻訳されて大きな反響を呼んだ。この研究をしながら、『無情』という作品と李光洙の生涯において日本留学が大きな意味を占めていることに気づいた申請者は、李光洙の留学時代に関して研究する必要があると感じたが、そのさい、李光洙の個別研究だけでは不十分だと考え、近代における朝鮮半島から日本への留学の流れという通時的な視野と、李光洙を取り巻いていた韓国留学生たち全体を視野に入れる共時的な研究をするために、日本と韓国の研究者たちに呼びかけて「植民地期朝鮮文学者の日本体験に関する総合的研究(基盤研究(B)課題番号:18320060)」という共同研究を2006年から3年間おこなった。

これによって申請者は李光洙の留学時期の研究に大きな助けを得、2011年に韓国で『日本留学生作家研究』(ソミョン出版/日本語版は今年度中に刊行予定)を出すことができた。また共同研究への参加者たちもそれぞれの分担領域で大きな成果をあげた。

研究機関名

新潟県立大学

研究代表者氏名

波田野節子

研究目的(つづき)

3. 李光洙の日本語創作

李光洙は「親日小説」(「親日」は対日協力の意)を日本語で書いた作家として韓国で指弾され、それに関する研究は多い。だが彼の日本語創作は、植民統治末期だけを取りだして論じられるものではない。彼の処女作は、学校誌に投稿した日本語小説だった。また最近発見された明治学院中学の留学生たちの愛国雑誌には、日本語で紀行文や随筆を書いている(波田野業績 2012:1)。日本語を通じて文学と出会った李光洙にとって、この時点において日本語創作は自然な行為であった。そして、その蓄積のうえに彼は大学時代に朝鮮語で『無情』を書いたのである。

1936年、李光洙は『改造』誌にやや実験的な日本語小説を発表した。これは純粋に文学的な行為だったが、まもなく日本は朝鮮に戦争協力を強要するようになり、弾圧されて転向を余儀なくされた李光洙は、それまでと違った意味で日本語創作を始めることになる(波田野業績 2012:2)。それらの作品の具体的な分析はこれからの課題だが、そのためには、これまでの研究の枠組みをこえた視座が必要であると申請者は考えている。

4. 朝鮮近代文学における日本語創作

朝鮮文学史においては近代小説の前に「新小説」と呼ばれる段階がある。その代表格である李人植(イ・インジク)が『都新聞』に短編「寡婦の夢」を発表したのは日本留学中の1902年だった。それ以降、朝鮮人によっておびただしい量の日本語作品が生みだされた。李人植や李光洙のように留学先の日本で創作した人々、日本語環境が整備されたあとの朝鮮で創作した李箱(イ・サン)や京城帝大出身者たち、張赫宙(チャン・ヒョクチュ)や金史良(キム・サリヤン)のように日本文壇に乗り出していった作家たち。彼ら一人ひとりが、自らが置かれた状況のもとで文学を媒介にして日本語との独自の関係を築いた、いや築かざるを得なかったのである。

5. 研究の現状および本研究の目的

解放後の韓国の国文学研究者たちは植民統治期末期を「暗黒期」と呼んで、日本語で書かれた作品を韓国文学に含めることを拒否した。つづく「ハンゲル世代」と呼ばれる日本語を知らない研究者たちの時代にもその傾向は続いた。しかし、最近の若い研究者には日本に留学して日本語に精通するもの多く、彼らが中心となって日本語創作の研究が活発におこなわれている。一方、日本では数こそ少ないが着実な研究が続けられてきている。最近の日韓の研究交流は、以前とは比べようがないほど緊密になった。ようやく整ったこの研究環境を生かし、日本語創作に関するこれまでの研究蓄積を大きな枠組みで照射して新たな知見を得られるような総合的研究が必要である。

具体的には、近代朝鮮語形成期に朝鮮半島に流入した日本語がその影響力を拡大していった実態、日本に長期滞在した留学生たちが置かれていた言語環境、植民地時代に文学と隣接していたメディア・映画・演劇・学術領域における日本語使用状況など、作家たちを取りまいていた状況全体を視野に入れ、かつ、日本と朝鮮という特殊性から抜け出して、「日本語創作」を「植民地における宗主国の言語による創作」と見る普遍的な視点をもって、従来おこなってきた個別の作家研究を深めること、これが本共同研究の目的である。

研究計画・方法

本欄には、研究目的を達成するための具体的な研究計画・方法について、冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述した上で、平成25年度の計画と平成26年度以降の計画に分けて、適宜文献を引用しつつ、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。ここでは、研究が当初計画どおりに進まない時の対応など、多方面からの検討状況について述べるとともに、研究計画を遂行するための研究体制について、研究分担者とともに行う研究計画である場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割（図表を用いる等）、学術的観点からの研究組織の必要性・妥当性及び研究目的との関連性についても述べてください。

また、研究体制の全体像を明らかにするため、連携研究者及び研究協力者（海外共同研究者、科研費への応募資格を有しない企業の研究者、大学院生等（氏名、員数を記入することも可））の役割についても必要に応じて記述してください。

なお、研究期間の途中で研究環境が大きく変わる場合は、研究実施場所の確保や研究実施方法等についても記述してください。

研究計画・方法（概要） 研究目的を達成するための研究計画・方法について、簡潔にまとめて記述してください。

1. 日本語創作とそれを取り巻く諸領域を7つの部門に分ける。
2. 各部門において研究蓄積のある日・韓・米在住の29名の研究者が定期的に意見を交換しながら研究をする。
3. 初年度と次年度にワークショップ、最終年度にシンポジウムを開催する。
4. 成果を1冊の本にまとめて日本と韓国で刊行する。

（研究計画）

初年度 採択後、日本在住研究者のみ東京に集まって今後のスケジュールを確認し、秋から冬に東京で第1回ワークショップを開催して問題意識を確認する。

次年度と最終年度

平成26年度に第2回ワークショップを新潟で開催、研究の途中経過を発表する。
平成27年度はシンポジウムを東京で開催し、各自の結論を持ちよって討論する。

本共同研究の主たる活動は、ワークショップでの討論、およびその結果を反映させた各自の研究活動である。参加者がそれぞれの研究蓄積を持ちよって問題意識を共有して討論するだけでも大きな成果が得られると期待される。最初の2年はワークショップを開催し、そこでの討論で得た知見を持ち帰って各自の研究領域に反映させ、その成果をまた持ちよるという形で研究を進める。最終年に一般公開のシンポジウムを開催する。その後、成果をまとめて日本と韓国の出版社から本を刊行する。

（研究体制）

本共同研究は次ページ表に示すように7つの部門からなる。それを日本、韓国、米国に在住する以下の29名の研究者が担当する。研究者番号を持たない海外研究者、非常勤講師、大学院生は研究協力者として共同研究に加わる。日本在住が15名、韓国在住が10名、米国在住が4名である。

研究代表者：波田野節子（新潟県立大教授）

研究分担者：渡辺直紀（武蔵大教授）芹川哲世（二松学舎大教授）熊木勉（福岡大教授）
山田佳子（新潟県立大准教授）三ツ井崇（東京大准教授）永島広紀（佐賀大准教授）坪井秀人（名古屋大教授）五味淵典嗣（大妻女子大准教授）

連携研究者：白川豊（九州産業大教授）

研究協力者：金榮敏（延世大教授）John Treat（Yale大教授）李京墳（延世大教授）金在湧（圓光大教授）朴光賢（東国大助教授）鄭鍾賢（成均館大研究教授）
具仁謨（延世大助教授）黄鎬德（成均館大助教授）李英載（韓国芸術総合学校講師）Kyeong-Hee Choi（Chicago大准教授）Nayoung Aimee Kwon（Duke大助教授）Eliie Choi（Cornell大助教授）具壯律（延世大助教授）伊藤知子（早大講師）李慧真（韓国外国語大講師）郭炯徳（早大大学院）柳忠熙（東大大学院）申知瑛（一橋大学院）相川拓也（東大大学院）

研究機関名	新潟県立大学	研究代表者氏名	波田野節子
-------	--------	---------	-------

研究計画・方法(つづき)

(1)日本語創作の 個別研究	李光洙	波田野節子 李京墳 Ellie Choi
	李人植	具壯律
	崔貞熙	山田佳子 Kyeong-Hee Choi
	李箱	相川拓也
	張赫宙/李石薫/鄭人澤	白川豊
	金史良	郭炯徳 金在湧
	崔載瑞	李慧真
	1940年代の日本語詩	熊木勉 芹川哲世 具仁謨
(2)朝鮮半島における日本語状況	伊藤知子 金榮敏 三ツ井崇	
(3)留学生たちの言語環境	永島広紀 黄鎬徳 柳忠熙	
(4)文学・映画製作と言語	渡辺直紀 李英載 Nayoung Aimee Kwon	
(5)学術・思想の制度と雑誌メディア	朴光賢 鄭鍾賢 申知瑛	
(5)日本文学研究者による視点	坪井秀人 五味淵典嗣	
(6)在米研究者による視点	John Treat	

(1)日本語創作の個別研究

- ・「李光洙の日本語創作」: 申請者が中心になり、『李光洙の親日文学研究』(韓国語)の著書がある延世大学の李京墳と李光洙研究でハーバード大学博士号を取得した Ellie Choi との3人が担当する。
- ・「李人植の日本語創作」: 実証的な李人植研究を続けている延世大学の具壯律が担当。
- ・「崔貞熙の日本語創作」: 朝鮮の女性作家研究者である新潟県立大の山田佳子と、崔貞熙の日本語小説「野菊抄」を対日協力とジェンダーの関係に焦点をあてて分析したシカゴ大学の Kyeong-Hee Choi が担当する。
- ・「李箱の日本語創作」: 李箱研究で修士号を取得した東京大学の相川拓也が担当する。
- ・「張赫宙・李石薫・鄭人澤の日本語創作」: 地道な研究を継続し、2010年に『張赫宙研究』と『韓国近代知日作家とその文学研究』を日本と韓国で刊行した九州産業大学の白川豊が担当する。
- ・「金史良の日本語創作」: 早稲田大学の郭炯徳と圓光大学の金在湧が共同で担当する。2人は2008-9年に『金史良の作品と研究1・2』(韓国語)を刊行している。
- ・「崔載瑞の日本語創作」: 京城帝国大学英文科出身の文芸評論家で多くの日本語評論を残した崔載瑞を論じた博士論文で韓国外国語大学博士号を取得し、崔載瑞の日本語小説も訳している李慧真が担当する。
- ・「太平洋戦争下の朝鮮における日本語詩」: 福岡大学の熊木勉と延世大学の具仁謨が、金鍾漢、韓植、朱永涉、金龍済、朱耀翰、徐廷柱らの1940年代日本語詩を対象にその共通性と個性を抽出し、二松学舎大学の芹川哲世は当時の朝鮮の雑誌に掲載された日本語詩の分析を行なう。

(2)朝鮮半島における日本語状況

開化期の朝鮮に流入した日本語が形成期の近代朝鮮語と文学に与えた影響については、最近『文学制度および民族語の形成と韓国近代文学(1890-1945)』を上梓したばかりの延世大学の金榮敏を中心に、本書を翻訳中である東京大学三ツ井崇、そして朝鮮で最初に「小説欄」を創設した日朝二カ国語新聞『漢城新報』の研究をしている伊藤知子が担当する。

(3)留学生たちの言語環境

- ・「1900年代東京留学生たちの言語環境」: 日本にいた留学生たちの自己表現手段が朝鮮語と漢文と日本語のあいだで揺れていた状況を、当時の留学生たちの雑誌や日記を資料として、成均館大学の黄鎬徳が担当する。

研究計画・方法（つづき）

- ・「尹致昊の日記に見る日本語」: 朝鮮最初の日本・米国留学生であり、中国にも留学した尹致昊の膨大な日記の研究を続けている東京大学の柳忠熙が担当する。
- ・「日本語創作予備軍としての旧制高等学校朝鮮人生徒の文芸活動」: 各地の旧制高等学校で朝鮮人生徒たちが書いた文芸作品を収集分析している佐賀大学の永島広紀が担当する。

(4) 文学・映画製作と言語

- ・「日朝合作映画の諸相」: 1940年代、映画製作社や配給社の統廃合の過程で日朝合作映画が製作されたとき、少なからぬ文学者がその作業に加わっていたことについて、その諸相を武蔵大学の渡辺直紀が研究する。
- ・「植民地末期朝鮮映画におけるコードスイッチング」: 植民地末期の朝鮮映画が、朝鮮語のセリフに日本語の字幕を付していたものから、朝鮮人の俳優も日本語のセリフを話すようになっていく過程を、Duke大学のNayoung Aimee Kwonが考察する。
- ・「韓国映画における解放前後の連続・非連続」: 植民地期の朝鮮映画業界は、宗主国日本の映画業界と満洲における満洲映画協会のあいだにあって製作・配給のノウハウを培った。終戦によって映画業界におけるヒトとモノが流動化したときにその版図がどのように変容していったかを韓国芸術総合学校の李英載が担当する。

(5) 学術・思想の制度と雑誌メディア

- ・「京城帝国大学と知の制度」: 内地日本の官学アカデミズムの輸出として始まった京城帝国大学が、朝鮮の伝統的な人文学研究と接触し展開していく諸相を、この分野で数多くの研究を手がけてきた東国大学の朴光賢が考察する。
- ・「植民地朝鮮における京都帝大出身知識人の思想と言語」: 植民地期から解放後にかけて、韓国の人文学に大きな影響をおよぼした多くの知識人のなかには京都帝大出身が少なからずいた。彼らの学問観や言語観がどのような経緯で生成したかの解明を、成均館大学の鄭鍾賢が担当する。
- ・「植民地朝鮮の雑誌メディアと座談会研究」: 日本の雑誌メディアの重要なフォーマットであった座談会形式が朝鮮の雑誌ジャーナリズムに移入されていく経過を一橋大学博士課程の申知瑛が考察する。

(6) 日本文学研究者による視点

『改造』誌出版関係資料をはじめ戦時中の日本文学について旺盛な研究を続けている大妻女子大学の五味淵典嗣は「戦時下の日本文学と朝鮮」、日本文学における戦争と文学表象との関わりを研究してきた名古屋大学の坪井秀人は「宗主国の作家たちと朝鮮」というタイトルで、日本文学研究者による視点から、宗主国の文壇が植民地作家の日本語創作をどう見ていたかについての研究を担当する。

(7) 在米研究者による視点

日本の原爆文学研究者として2010年に著書『グランド・ゼロを書く』が日本でも翻訳刊行されたYale大学のJohn Treatは韓国文学も研究しており、今年『The Journal of Asian Studies』に李光洙の対日協力を扱った論文「Choosing to Collaborate: Yi Kwang-su and the Moral Subject in Colonial Korea」を発表した。John Treatはマグレブのフランス語文学やアイルランドの英語文学も視野にいれた「世界文学から見た日本語創作」のテーマで研究をおこなう。

今回の研究計画を実施するに当たっての準備状況及び研究成果を社会・国民に発信する方法

本欄には、次の点について、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。
 本研究を実施するために使用する研究施設・設備・研究資料等、現在の研究環境の状況
 研究分担者がいる場合には、その者との連絡調整の状況など、研究着手に向けての状況（連携研究者及び研究協力者がいる場合についても必要に応じて記述してください。）
 本研究の研究成果を社会・国民に発信する方法等

本研究を実施するために使用する施設・設備・研究資料等の研究環境はほぼ整っている。

国内の研究者たちは研究会や学会で顔を合わせている旧知の間柄である。国外の研究協力者たちはほとんどが日本留学の経験者で、個別的に日本側研究者たちと協力もしており、意思の疎通に問題はない。連絡調整はメールと電話を利用している。

研究成果は各自が論文執筆か学会発表の形で公開する。最終的にそれらをまとめて日本と韓国で本を出版する。

全体の研究成果を申請者のホームページで公開する。

研究計画最終年度前年度の応募を行う場合の記入事項（該当者は必ず記入してください（公募要領 18 頁参照））

本欄には、研究代表者として行っている平成 25 年度が最終年度に当たる継続研究課題の当初研究計画、その研究によって得られた新たな知見等の研究成果を記述するとともに、当該研究の進展を踏まえ、今回再構築して本研究に応募する理由（研究の展開状況、経費の必要性等）を記述してください。（なお、本欄に記述する継続研究課題の研究成果等は、基盤 A・B (一般) - 10 の「これまでに受けた研究費とその成果等」欄には記述しないでください。）

研究種目名	審査区分	課題番号	研究課題名	研究期間
				平成 年度～ 平成 25 年度

当初研究計画及び研究成果等

応募する理由

研究業績			
<p>本欄には、研究代表者及び研究分担者が最近5カ年間に発表した論文、著書、産業財産権、招待講演のうち、本研究に関連する重要なものを選定し、現在から順に発表年次を過去にさかのぼり、発表年(暦年)毎に線を引いて区別(線は移動可)し、通し番号を付して記入してください。なお、学術誌へ投稿中の論文を記入する場合は、掲載が決定しているものに限ります。</p> <p>また、必要に応じて、連携研究者の研究業績についても記入することができます。記入する場合には、二重線を引いて区別(二重線は移動可)し、研究者毎に、現在から順に発表年次を過去にさかのぼり記入してください(発表年毎に線を引く必要はありません。)</p>			
発表年	研究代表者・分担者氏名	<p>発表論文名・著書名 等</p> <p>(例えば発表論文の場合、論文名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年(西暦)について記入してください。)</p> <p>(以上の各項目が記載されていれば、項目の順序を入れ替えても可。著者名が多数にわたる場合は、<u>主な著者を数名記入し以下を省略(省略する場合、その員数と、掲載されている順番を 番目と記入)しても可。なお、研究代表者には二重下線、研究分担者には一重下線、連携研究者には点線の下線を付してください。</u>)</p>	
2012 以降	波田野節子 (研究代表者)	<p>1(論文)「李光洙の日本語創作と日本文壇」,『朝鮮学報』,査読有,第223輯,45-70,2012</p> <p>2(論文)「『極秘新韓自由鐘第壹卷第三号』の李光洙関連資料について」(韓国語),『近代書誌』,査読有,No.5,239-262,2012</p> <p>3(著書)『韓国語教育論講座第2巻』(共著),くろしお出版,2012</p>	
	三ツ井崇 (研究分担者)	<p>4(論文)「朴勝彬の言語運動とその性格:基礎的考察」(韓国語),『韓国学研究』,査読有,26集,261-306,2012</p> <p>5(論文)「植民地下朝鮮における言語の政治学 朝鮮言語政策・社会史再考」,『翰林日本学』,査読有,第20輯,61-104,2012</p>	
	五味淵典嗣 (研究分担者)	<p>6(論文)「紙の支配と紙による支配 《出版新体制》と権力の表象」,『Intelligence』,査読有,12号,114-124,2012</p> <p>7(論文)「漸近と交錯 「春琴抄後語」をめぐる言説配置」,『大妻国文』,査読無,43号,167-183,2012</p>	
	坪井秀人 (研究分担者)	<p>8(著書)『性が語る 二〇世紀日本文学の性と身体』,名古屋大学出版会,2012</p>	
2011	波田野節子 (研究代表者)	<p>9(論文)「創作と体験のあいだ 『無情』の再読(下)」,『朝鮮学報』,査読有,第218輯,81-114,2011</p> <p>10(論文)「李光洙の『民族改造論』とギュスターヴ・ル・ボンの『民族進化の心理学法則』」,『国際地域研究論集』,査読無,第2号,143-156,2011</p> <p>11(著書)『日本留学生作家研究』,ソミョン出版社(ソウル),2011</p> <p>12(論文)「『三京印象記』に書かれなかったこと - 李光洙と山崎俊夫そして菊池寛」(韓国語),『SAI』,査読有,No.11,9-30,2011</p> <p>13(招待講演)「大東亜文学者大会での李光洙発言に見る《連続性》」(韓国語),忠南大学民族文化研究所,2011.9.3</p> <p>14(招待講演)「李光洙研究について」,第62回朝鮮学会公開講演,2011.10.1</p> <p>15(招待講演)「李光洙と日本文壇」(韓国語),延世大学原州キャンパス現代文学会,2011.11.4</p>	
	渡辺直紀 (研究分担者)	<p>16(論文)「李光洙と『新時代』」『植民地文化研究』,査読無,10号,46-61,2011</p> <p>17(著書)『近代韓国,「帝国」と「民族」の交差路』(韓国語,共著),本とともに,2011</p> <p>18(著書)『移動のテキスト,横断する帝国』(韓国語),朴光賢ほか9名共著,東国大学校出版部,2011</p>	
	三ツ井崇 (研究分担者)	<p>19(論文)「解放後南朝鮮/韓国の言語運動・政策と「言語運動史」 植民地期との「連続」に注目して」,『歴史学研究』,査読有,第875号,13-24,2011</p>	
	永島広紀 (研究分担者)	<p>20(論文)「韓国統監府・朝鮮総督府における 旧慣 の保存と継承」,『東アジア近代史』,査読有,14号,84-95,2011</p>	
	五味淵典嗣 (研究分担者)	<p>21(著書)『戦時期朝鮮の「新体制」と京城帝国大学』,ゆまに書房,2011</p> <p>22(論文)「社内文書は何を語るか 『改造社出版関係資料』への一視点」,『大妻国文』,査読無,42号,171-187,2012</p>	
研究機関名	新潟県立大学	研究代表者氏名	波田野節子

研究業績(つづき)	
2010 波田野節子 (研究代表者) 渡辺直紀 (研究分担者) 三ツ井崇 (研究分担者) 五味淵典嗣 (研究分担者) 坪井秀人 (研究分担者)	23(論文)「李光洙の第二次留学時代 『無情』の再読(上)」,『朝鮮学報』,査読有,第217輯,1-37,2010 24(招待講演)「李光洙の『民族改造論』とギュスターヴ・ル・ボンの『民族進化の心理学的法則』について」(韓国語),慶熙大学比較文学研究所,2010.6.5 25(論文)「日本における韓国文学・文化研究の動向 2005-2010」(韓国語),『SAI』,査読有,No.9,409-432,2010 26(著書)『朝鮮植民地支配と言語』,明石書店,2010 27(論文)「『言語問題』から見た韓国近代史:教育政策と言語運動の側面から」(韓国語),『韓国学研究』,査読有,22集,441-477,2010 28(著書)『三田文学の100年』(共著),慶應義塾大学出版会,2010 29(論文)「デジタル・アーカイヴと研究者のスキル 『改造社出版関係資料』の経験から」,(『昭和文学研究』査読有,2010/9,125-128,2010 30(論文)「大妻女子大学草稿・テキスト研究所蔵「梶井基次郎出版関係資料」について」,『大妻女子大学草稿・テキスト研究所年報』,査読無,2・3合併号,16-23,2010 31(論文)「甲斐のない多忙 戦時下日本語文学論序説」,『文学』,査読無,11巻2号,138-154,2010 32(論文)「横溝正史と戦後啓蒙 『獄門島』試論」,『大妻国文』,査読無,41号,77-91,2010 33(著書)『イメージとしての戦後』(共編著),青弓社,2010
2009 波田野節子 (研究代表者) 渡辺直紀 (研究分担者) 山田佳子 (研究分担者) 五味淵典嗣 (研究分担者)	34(著書)『朝鮮半島のことばと社会 油谷幸利先生還暦記念論文集』,波田野節子,三ツ井崇,板垣竜太,野間秀樹,岸田文隆ほか25名,明石書店,2009 35(著書)『植民地期朝鮮文学者の日本体験に関する総合的研究』,波田野節子,山田佳子,熊木勉,渡辺直紀,白川豊ほか6名,図書出版青雲(ソウル),2009 36(論文)「朝鮮文学者たちの日本留学」,『植民地文化学会誌』,査読無,第8号,21-26,2009 37(招待講演)「開化期から併合までの日本留学」(韓国語),海外碩学招聘特別講演会,仁荷大学BK21,2009.7.6 38(招待講演)「開化期日本留学の3つの波」,碩学招請講演会,東国大学BK21,2009.7.15 39(論文)「植民地朝鮮における 満洲 言説と政治的無意識 文芸評論家・林和の1940年代前半の議論を中心に」(韓国語)『震檀学報』,査読有,第107号,277-297,2009 40(論文)「朴花城の長篇小説『白花』について」,『県立新潟女子短期大学研究紀要』,査読無,第46集,141-149,2009 41(著書)『言葉を食べる 谷崎潤一郎1920~1931』,世織書房,2009 42(論文)「山本実彦 「出版界の四天王」の栄光と挫折」,『近代日本メディア人物/創始者・経営者編』,査読無,167-174,2009 43(論文)「山本実彦年譜考 『東京毎日新聞』時代を中心に」,『大妻国文』,査読無,第40号,97-114,2009
2008 波田野節子 (研究代表者)	44(著書)『李光洙<無情>の研究 韓国啓蒙文学の光と影』,白帝社,2008 45(著書)『<無情>を読む 『無情』の光と影』,ソミョン出版社(ソウル),2008 46(著書)『韓国語教育論講座第4巻』,野間秀樹監修,波田野節子,白川豊,熊木勉,渡辺直紀ほか19名,くろしお出版,67-84,2008 47(論文)「『無情』を書くころの李光洙」,『県立新潟女子短期大学研究紀要』,査読無,第44集,333-341,2008 48(招待講演)「韓国文学に視る人間の絆」,大阪女学院大学主催・大学開放プログラム,2008.3.8 49(招待講演)「李光洙の日本留学と『無情』」,東京大学コリア・コロキウム,2008.7.29

研究業績(つづき)			
渡辺直紀 (研究分担者)	50(論文)「張赫宙の長篇小説『開墾』(1943)について」,『韓国文学の研究』,査読有,第36集,111-142,2008		
	51(論文)「植民地朝鮮のプロレタリア農民文学と「満洲」<協和>の叙事と<再発明された農本主義>」,『日本学報』,査読有,第74輯,206-225,2008		
山田佳子 (研究分担者)	52(論文)「朴花城の東京留学時代」,『県立新潟女子短期大学研究紀要』,査読無,第45集,217-225,2008		
三ツ井崇 (研究分担者)	53(著書)『日本植民地研究の現状と課題』(共著)アテネ社,2008		
永島広紀 (研究分担者)	54(論文)「戦時下の朝鮮における「醇正ナル国語」の再編成」,査読有,『史境』56号,21-40,2008		
	55(論文)「日本統治下の朝鮮における転向者と思想「善導」の構図」,査読無,『佐賀大学文化教育学部研究論文集』12巻2号,348-374,2008		
五味淵典嗣 (研究分担者)	56(論文)「物語の抵抗と抵抗の物語 《谷崎源氏》以前」,『国文学解釈と鑑賞』,査読無,第73巻5号,165-173,2008		
坪井秀人 (研究分担者)	57(著書)『ラジオ放送局(コレクション・モダン都市文化32)』,ゆまに書房,2008(編著)		
白川豊 (連携研究者)	58(著書)『張赫宙研究』(韓国語),東国大学校出版部(ソウル),2010		
	59(著書)『韓国近代知日作家とその文学研究』(韓国語),キップンセム(ソウル),2010		
	60(論文)「想渉の1950年前後の長編小説について」『朝鮮学報』査読有,第217輯,1-27,2010		
	61(著書)『朝鮮近代の知日派作家,苦闘の軌跡』,勉誠出版,2008		
	62(論文)「佐賀高等学校時節の金史良」,『金史良・作品と研究1』所収,査読無,亦楽(ソウル),325-380,2008		
金榮敏 (研究協力者)	63(著書)『文学制度および民族語の形成と韓国近代文学1890-1945』,ソミヨン出版(ソウル),2012		
	64(著書)『韓国の近代新聞と近代小説2:漢城新報』,ソミヨン出版(ソウル)2008		
	65(著書)『韓国文学の近代と近代克服』(共著),ソミヨン出版(ソウル)2010		
	66(著書)『李光洙文学の再認識』(共著),ソミヨン出版(ソウル)2009		
	67(著書)『新民族文学史講座2』(共著),創批(ソウル),2009		
	68(著書)『論文で読む文学史1』(共著)ソミヨン出版(ソウル),2008		
	69(著書)『李箱隨筆作品論』(共著),亦楽出版社(ソウル),2010		
李京墳 (研究協力者)	70(著書)『朴泰遠文学の現在と未来』(共著),キップンセム(ソウル),2010		
	71(著書)『李箱詩作品論』(共著),亦楽出版社(ソウル),2009		
具壯律 (研究協力者)	72(著書)『知識と小説の連帯』ソミヨン出版(ソウル),2012		
	73(著書)『近代初期雑誌と分科学問の形成』,ソミヨン出版(ソウル),2012		
	74(著書)『植民地時代の検閲と韓国文化』(共著),東国大出版部,2010		
申知瑛 (研究協力者)	75(著書)『不/在の時代 近代啓蒙期及植民地朝鮮における演説・座談会研究』ソミヨン出版(韓国),2012		
鄭鍾賢(研究協力者)	76(著書)『東洋論と植民地の朝鮮文学』,創作と批評社(ソウル),2011		
黄鎬徳 (研究協力者)	77(著書)『韓国語の近代と二重語辞典』(共著),チウム博文社(ソウル),2012		
	78(著書)『虫と帝国 植民地末文学の言語・バイオポリティクス・テクノロジー』,セムルキョル(ソウル),2011		
John Treat (研究協力者)	79(著書)『グランド・ゼロを書く』,法政大学出版局,2010		
	80(論文)“Choosing to Collaborate: Yi Kwang-su and the Moral Subject in Colonial Korea.” Journal of Asian Studies, vol.71, 81-102, 2012		
Ellie Choi (研究協力者)	81(論文)“Space and national identity: Yi Kwangsu's vision of Korea during the Japanese empire”, Harvard University, 2009		
研究機関名	新潟県立大学	研究代表者氏名	波田野節子

これまでに受けた研究費とその成果等

本欄には、研究代表者及び研究分担者がこれまでに受けた研究費（科研費、所属研究機関より措置された研究費、府省・地方公共団体・研究助成法人・民間企業等からの研究費等。なお、現在受けている研究費も含む。）による研究成果等のうち、本研究の立案に生かされているものを選定し、科研費とそれ以外の研究費に分けて、次の点に留意し記述してください。

それぞれの研究費毎に、研究種目名（科研費以外の研究費については資金制度名）期間（年度）研究課題名、研究代表者又は研究分担者の別、研究経費（直接経費）を記入の上、研究成果及び中間・事後評価（当該研究費の配分機関が行うものに限る。）結果を簡潔に記述してください。（平成23年度又は平成24年度の科研費の研究進捗評価結果がある場合には、基盤A・B（一般）-11「研究計画と研究進捗評価を受けた研究課題の関連性」欄に記述してください。）

科研費とそれ以外の研究費は線を引いて区別して記述してください。

科研費による研究

波田野節子（研究代表者）

1. 基盤研究(C)平成7-9年度「朝鮮近代文学における日本との関連様相」研究分担者
2. 基盤研究(B)平成11-13年度「朝鮮近代文学者と日本」研究分担者
3. 基盤研究(C)平成15-16年度「洪命憲の『林巨正』と『朝鮮王朝実録』」研究代表者 120万円
4. 基盤研究(B)平成18-20年度「植民地期朝鮮文学者の日本体験に関する総合的研究」研究代表者 800万円 研究分担者：渡辺直紀, 山田佳子, 熊木勉ほか3名
 (研究成果) 海外研究協力者たちを迎えてソウルと新潟でワークショップ、東京で日韓シンポジウムを開催。シンポジウム報告のほか、日韓の女性文学研究者の対談記録、関連資料の翻訳、学籍簿等の資料付き「朝鮮人作家の日本体験一覧表」「作家たちの居住地等の文学散歩地図」を収めた成果報告書を刊行した。趙素昂の日記『東遊略抄』を翻訳した。代表者と分担者は各自論文を執筆して学会誌や紀要に掲載し学会で発表した。得られた成果をウェブで公開した。『日本留学生作家研究』を刊行した。

渡辺直紀（研究分担者）

5. 基盤研究(B)平成22-27年度（予定）「東アジアにおける前期冷戦文化の多角的考察」研究分担者

永島広紀（研究分担者）

6. 奨励研究(A)平成12-13年度「日本統治末期の朝鮮における<国民総力>運動に関する史的考察」研究代表者 180万円
7. 若手研究(B)平成14-15年年度「戦時下の朝鮮における東学系類似宗教団体の「右派」民族運動に関する基礎的研究」研究代表者 190万円

三ツ井崇（研究分担者）

8. 基盤研究(A)平成18-21年度「日本・朝鮮間の相互認識に関する歴史的研究」研究分担者
9. 若手研究(B)平成21-22年度「植民地期朝鮮における文化運動の展開と植民地権力」研究代表者 351万円

五味淵典嗣（研究分担者）

10. 基盤研究(C)平成18-20年度「改造社を中心とする20世紀日本のジャーナリズムと知的言説をめぐる総合的研究」研究分担者
11. 若手研究スタートアップ平成18-19「旧植民地地域発行日本語逐次刊行物に見るメディアの共同性構築機能についての研究」研究代表者 138万円
12. 若手研究(B)平成21-23年度「《文学》の生存戦略 戦時下日本語文学の再審に向けて」研究代表者 180万円
13. 若手研究B平成24-26年度「言説の生 = 政治 戦時下日本語文学に関する総合的研究」研究代表者 160万円

坪井秀人（研究分担者）

14. 基盤研究(C)平成16-17年度「戦時期・敗戦期における少年雑誌の研究 - 『週刊少国民』を中心として」研究代表者：250万円
15. 基盤研究(B)平成22-27年度（予定）「東アジアにおける前期冷戦文化の多角的考察」研究分担者
16. 基盤研究(C)平成23-26年度（予定）「詩歌のジャポニスム 西欧における展開と日本モダニズムへの接合に関する研究」研究代表者 270万円

研究計画と研究進捗評価を受けた研究課題の関連性

- ・本欄には、本応募の研究代表者が、平成23年度又は平成24年度に、「特別推進研究」、「基盤研究(S)」、「若手研究(S)」又は「学術創成研究費」の研究代表者として、研究進捗評価を受けた場合に記述してください。
- ・本欄には、研究計画と研究進捗評価を受けた研究課題の関連性(どのような関係にあるのか、研究進捗評価を受けた研究を具体的にどのように発展させるのか等)について記述してください。

研究機関名

新潟県立大学

研究代表者氏名

波田野節子

人権の保護及び法令等の遵守への対応（公募要領5頁参照）

本欄には、研究計画を遂行するにあたって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取り扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など法令等に基づく手続きが必要な研究が含まれている場合に、どのような対策と措置を講じるのか記述してください。

例えば、個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査、提供を受けた試料の使用、ヒト遺伝子解析研究、組換えDNA実験、動物実験など、研究機関内外の倫理委員会等における承認手続きが必要となる調査・研究・実験などが対象となります。

なお、該当しない場合には、その旨記述してください。

以前の韓国では対日協力や日本語創作をした作家の子孫が、そのことで不利益をこうむるということがあった。最近はそのようなことはなくなったとはいえ、個人情報と人権保護にはできるだけ配慮をする。必要によっては研究代表者の所属研究機関における倫理審査会の手続きを経るなどしながら研究を遂行する。

研究経費の妥当性・必要性

本欄には、「研究計画・方法」欄で述べた研究規模、研究体制等を踏まえ、次頁以降に記入する研究経費の妥当性・必要性・積算根拠について記述してください。また、研究計画のいずれかの年度において、各費目（設備備品費、旅費、人件費・謝金）が全体の研究経費の90%を超える場合及びその他の費目で、特に大きな割合を占める経費がある場合には、当該経費の必要性（内訳等）を記述してください。

設備や消耗品については、現在の研究環境で問題がないので特に要求しない。本共同研究の主たる活動はメンバーが研究蓄積を持ち寄って討論し新しい知見を得ることである。それゆえ移動のための費用が予算要求のほとんどを占めており、各年度とも旅費が全体予算の90パーセントを超える。

以下の経費を要求する。

- (1) 採択後の打ち合わせ会議1回、初年度と次年度の東京・新潟での2回のワークショップ、最終年度の東京シンポジウムのための出張費
- (2) 日本在住研究者が資料調査のために年に1度韓国に出張する費用
- (3) 最終年度のシンポジウム開催に要する資料集の翻訳費と印刷費および同時通訳などの人件費

基盤A・B(一般) - 13

(金額単位：千円)

設備備品費の明細			消耗品費の明細		
[記入に当たっては、基盤研究(A・B)(一般)研究計画調書作成・記入要領を参照してください。]			[記入に当たっては、基盤研究(A・B)(一般)研究計画調書作成・記入要領を参照してください。]		
年度	品名・仕様 (数量×単価)(設置機関)	金額	品名	金額	
25		0		0	
26		0		0	
27		0		0	
研究機関名		新潟県立大学		研究代表者氏名	波田野節子

基盤A・B(一般) - 14

(金額単位：千円)

旅費等の明細 (記入に当たっては、基盤研究(A・B)(一般)研究計画調書作成・記入要領を参照してください。)								
年度	国内旅費		外国旅費		人件費・謝金		その他	
	事項	金額	事項	金額	事項	金額	事項	金額
25	研究打ち合わせ旅費 (東京で会合とワークショップ,日本在住者15名)	740	研究打ち合わせ旅費 (韓国-日本往復10名,米国-日本往復4名) 調査研究旅費 (日本-韓国往復15名)	3,100 1,950		0	複写費	30
	合計	740	合計	5,050		0	合計	30
26	研究打ち合わせ旅費 (新潟でワークショップ)	750	研究打ち合わせ旅費 (韓国-日本往復10名,米国-日本往復4名) 調査研究旅費 (日本-韓国往復15名)	3,100 1,950		0	複写費	30
	合計	750	合計	5,050		0	合計	30
27	成果発表旅費 (東京でシンポジウム)	370	成果発表旅費 (韓国-日本往復10名,米国-日本往復4名) 調査研究旅費 (日本-韓国往復15名)	3,100 1,950	人件費 同時通訳謝金 冊子翻訳謝金	30 160 200	冊子印刷費 複写費	300 30
	合計	370	合計	5,050	合計	390	合計	330

研究費の応募・受入等の状況・エフォート

本欄は、第2段審査(合議審査)において、「研究資金の不合理な重複や過度の集中にならず、研究課題が十分に遂行し得るかどうか」を判断する際に参照するところですので、本人が受け入れ自ら使用する研究費を正しく記載していただく必要があります。本応募課題の研究代表者の応募時点における、(1)応募中の研究費、(2)受入予定の研究費、(3)その他の活動、について、次の点に留意し記入してください。なお、複数の研究費を記入する場合は、線を引いて区別して記入してください。具体的な記載方法等については、研究計画調書作成・記入要領を確認してください。

「エフォート」欄には、年間の全仕事を100%とした場合、そのうち当該研究の実施等に必要となる時間の配分率(%)を記入してください。

「応募中の研究費」欄の先頭には、本応募研究課題を記入してください。

科研費の「新学術領域研究(研究領域提案型)」にあつては、「計画研究」、「公募研究」の別を記入してください。

所属研究機関内で競争的に配分される研究費についても記入してください。

(1) 応募中の研究費

資金制度・研究費名(研究期間・配分機関等名)	研究課題名(研究代表者氏名)	役割(代表・分担の別)	平成25年度の研究経費(期間全体の額) <small>(千円)</small>	エフォート(%)	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由 <small>(科研費の研究代表者(又は拠点リーダー等のようにプログラム全体の研究費の受入研究者)の場合は、研究期間全体(又はプログラム全体)の受入額を記入すること)</small>
【本応募研究課題】 基盤研究(B)(一般) (H25~H27)	朝鮮近代文学における日本語創作に関する総合的研究(波田野節子)	代表	5,820 (17,790)	20	(総額 17,790 千円)

研究機関名

新潟県立大学

研究代表者氏名

波田野節子

研究費の応募・受入等の状況・エフォート(つづき)					
(2) 受入予定の研究費					
資金制度・研究費名(研究期間・配分機関等名)	研究課題名(研究代表者氏名)	役割(代表・分担の別)	平成25年度の研究経費(期間全体の額) <small>(千円)</small>	エフォート(%)	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由 <small>(科研費の研究代表者(又は拠点リーダー等のようにプログラム全体の研究費の受入研究者)の場合は、研究期間全体(又はプログラム全体)の受入額を記入すること)</small>
(3) その他の活動 〔上記の応募中及び受入予定の研究費による研究活動以外の職務として行う研究活動や教育活動等のエフォートを記入してください。〕				80	
合計 (上記(1)、(2)、(3)のエフォートの合計)				100 (%)	